

発言者	発言内容
伊豆参事兼学校指導課長	<p>皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今より、多田グリーンハイツ地区小学校区に関する地域説明会を始めさせていただきます。はじめに、川西市教育長、牛尾がごあいさつ申し上げます。</p>
牛尾教育長	<p>皆様こんにちは、教育長の牛尾です。本日は、本説明会にご出席いただき、本当にありがとうございます。暑い中、本当にありがとうございます。</p> <p>さて、市教育委員会では、多田グリーンハイツ地区におきまして、当初、当時の児童数の推計をもって、緑台小学校と陽明小学校を統合する、その方針を決定して、皆様に説明してまいりました。しかしながら、多くの皆様から様々なご意見をいただき、また児童数の実態の状況を見た中で、統合までのプロセス、保護者や地域の皆様への説明のプロセスに課題があったことを踏まえ、昨年、平成28年6月に、小学校統合に関して、再検討することを決定いたしました。これまで、様々な経過におきまして、多くの方々にご迷惑・ご心配をお掛けしました。市教育委員会を代表しまして、お詫び申し上げます。本当にご心配をお掛けしました。</p> <p>市教育委員会といたしましては、その後、様々なご意見やお考えをいただき整理をし、改めまして2つの地区における「学校配置の適正化に関する手順」として、まとめさせていただきました。内容につきましては、後ほど、担当からご説明をさせていただきます。大きく申し上げますと、今後の学校配置の適正化を進めていく際には、地域の実情に十分にに応じて検討を行い、保護者や地域の皆様と議論、協議、意見交換等をもって進めていくこと、このことが再検討後の教育委員会の考え方です。</p> <p>本日の説明会、ご質問、ご意見をいただいて、議論、意見交換等を深めていただければ幸いに存じます。本日、この後、よろしく願いいたします。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>ここで、本日出席しております、教育委員会事務局職員を紹介いたします。</p> <p>先ほど、ご挨拶いたしました 川西市教育長、牛尾です。</p> <p>教育推進部長、木下です。</p> <p>学校教育室長、岸です。</p> <p>総務調整室長兼教育推進部参事、中西です。</p> <p>学務課長、志波です。</p> <p>私は、本日司会を務めます、教育推進部参事兼学校指導課長、伊豆でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、お手元の資料をもとに説明いたします。説明の後、皆様からご意見を賜る時間を考えております。また、本日のご意見等を記録するため、本説明会の音声</p>

<p>木下教育推進部長</p>	<p>は録音させていただきますので、ご了承願います。</p> <p>それでは、まず、教育推進部長、木下から説明させていただきます。</p> <p>失礼いたします。お配りしております手順の方の説明、担当の者からさせていただきますけれども、その前に、1点だけ私のほうからお話させていただきたいと思っています。学校配置の適正化の手順ということで説明に入る前に、昨年8月です、地域説明会を4か所、ここ陽明小学校、緑台小学校、そして清和台小学校、清和台南小学校、4地区小学校において説明をさせていただいたわけですが、その中で昨年8月20日に清和台南小学校の説明会の中で、「今後示される手順については、川西市全体の手順を作るのですか」とそういった質問をいただきました、そのときには「そのように考えています」というお答えをしています。つまり、川西市全体の手順をお示ししていくことを清和台南小学校の説明会で言っているわけですが、お手元の資料を見ていただいたら判りますように、多田グリーンハイツ地区と清和台地区、この2地区の手順となっているということで、そのことについて最初に説明させていただきたいと思います。</p> <p>校区審議会の方で、市全体の考え方として、学校教育の十全な展開と教育上の平等性の確保、いわゆる市内の中でいわゆる単学級といわれる小さい規模は好ましくないのではないかというそういったことが校区審議会の中で示されました。それと通学上の安全の確保、それと地域との関係性といった3つの点から示されてきたわけですが、その中で、多田グリーンハイツ地区と清和台地区の2地区について統合が妥当であると、そういう見解が示された中で、教育委員会として統合に向けた取り組みを進めてきた、そういう経緯の中で、また、手順を示していかなければいけないと、そういう状況がきた中で示してきているとそういった経緯がございますので、今回お示ししているのは2地区に限った手順であるということがございます。</p> <p>また、併せて地域の実態に合わせた統合を進めていこうというそういった関係の中で、いわゆる市全体の手順を作るということは非常に困難であるということもございまして、今回2地区について示させていただいたということもございます。そういったことで、いわゆる清和台南小学校での市全体の手順を示させていただくといったことと異なっているところを最初にご説明させていただきました。ご理解賜りますようによろしく願いいたします。続きまして担当の方から説明させていただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい、失礼します。それでは私から、多田グリーンハイツ地区・清和台地区における学校配置の適正化に関する手順、こちらについてご説明させていただきたいと存じます。本日の資料は2種類でございます。1つは「学校配置の適正化に関する手順」と書かれた5枚ものをホチキス止めしたものが1種類、それと表の形式でA3版になっているもの、児童の推計表でございます。この2種類ということでございます。お手元にお揃いでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、少し長くなりますので、座って説明をさせていただきます。</p>

それでは資料の具体的な説明に入らせていただく前に、これまでの経緯も含めまして、少し説明をさせていただきます。先ほど来の教育長のあいさつと少し重複する部分もございますけれども、ご了承いただけますでしょうか。

当初、市教育委員会といたしましては、少子化の影響で、全国的に学校規模の縮小化が進んでいる状況のもとで、今から約2年前になるのですが、校区審議会からの答申を受けて、小学校統合について検討を進めてまいりました。しかしながら、児童数の状況を整理する中で、また、児童数推計方法、学校統合までのプロセス、また、そして、保護者や地域の皆様への説明プロセス、ここに課題があったと結論づけまして、昨年、平成28年6月に、小学校統合については再検討するというように決定いたしました。その後、多くの皆様からいただきました様々なご意見、お考えを整理しまして、今回、この学校配置の適正化に関する手順を作成しまして、本日お配りさせていただいているということでございます。なお、この資料に基づきまして、清和台地区におきましては、ちょうど1週間前5月14日(日)になるんですけど、地域説明会を実施いたしました。多田グリーンハイツ地区については今日ということなんですけれども、この後15時30分から緑台小学校の方でも説明会をさせていただく予定になっております。

本手順の中では、今後、学校配置の適正化を検討していく上では、今まで以上、より良い教育環境への充実を図るとともに、小学校がコミュニティの核であることを勘案しながら、地域の実情に応じて検討を進めるということを中心に基本的な考え方としております。具体的には、以前お示ししておりましたように児童数推計に基づいた進め方ではなく、児童数の実態、実人数の動きを見た上で、必要な時点から検討をスタートさせる、ということにいたしております。また、検討を始めてからは、例えば2年後とか3年後とかというように、あらかじめ統合時期を決めるということではなく、保護者の皆様や地域の皆様のご意見をお伺いしながら、適切と考えられる時期に実施するというように考えております。また、学校の選定に関しましては、その時点から、改めて検討を始めるということにいたしております。

それでは、資料に沿ってご説明を進めさせていただきます。お配りしております「学校配置の適正化に関する手順」をご覧ください。まず、表紙を1枚めくっていただきまして、そこに「目次」を記載しておりますが、ここでは「手順作成の主旨について」から「これまでの経過」、「学校配置の適正化にかかる基本的な考え方」など、大きく6つの項目に分けて整理しております。

では、早速ですが1ページをご覧ください。ここでは、本手順の作成主旨について記載をしております。地域によりましては、小学校の小規模化が進んでいるという現状や、小規模校の教育上の利点、また、一方で問題点というものを記載しております。そして下から6行目以降になるのですが、市教育委員会としては、小学校の小規模化に対し、教育上の平等性を確保するためにも「ある一定規模の集団を確保することが必要である」という考えのもとで、この手順を作成した、そのような主旨をお示しさせていただいております。

次に2ページに移ります。ここでは、これまでの経緯について記載しております。

す。多田グリーンハイツ・清和台の両地区における学校配置の適正化に関しましては、校区審議会の中で審議され、その答申に基づいて、今から約2年前の平成27年8月、教育委員会定例会において小学校統合について方針決定をいたしました。しかしながら、児童数の見通しや各地域からの様々なお考えやご意見を整理する中で、昨年、平成28年6月の教育委員会定例会で、両地区での小学校統合については再検討することに決定したという、そのようなこれまでの事実経過を記載しております。

次に3ページをご覧ください。大きな3番としまして、市教育委員会としての「学校配置の適正化にかかる基本的な考え方」というものを記載しております。3行目以降に小学校が地域コミュニティの核であることを勘案し、今後、地域の実情に応じた検討を進めるということ、また、保護者や地域の方々との丁寧な議論を進めていくこと、それらについてお示ししております。

次に、大きな4番目でございます。「学校配置の適正化実施条件と新たな児童推計手法」についてということでございます。まず「(1) 適正化実施条件」ですが、ここでは年度当初の4月に、いずれかの学校、つまり、多田グリーンハイツ地区では緑台小学校または陽明小学校において、複数学年に単学級、要するに1クラスの実態があるという場合に、そういう状況が起こった時から、その時点から、学校・保護者・地域の方々との協議をスタートさせるということに記載しております。続きまして、「(2) 新たな児童推計手法」では、ここでは児童数の推計の算出方法を記載しておりますが、先ほど申しましたように、適正化実施条件は「いずれかの小学校の複数学年に単学級が実際に発生した場合」としておりますので、この児童数推計は、今後の見通しなど、状況把握にのみ活用することにいたしております。

次に4ページの方をご覧ください。ここからは、「学校配置の適正化に関する手順」ということで、(1)では「学校配置の適正化に関する手順の説明」を記載しております。ここでは、今回お示ししております本手順を皆様にご理解いただくため、下の図の方でお示ししているのですが、各小学校区単位を中心に、皆様のご意見やお考えを聴く機会を設けたいといたしております。

次に5ページをご覧ください。(2)では「適正化実施条件の検証」について記載しております。毎年、年度当初に学級数の実態を確認し、適正化実施条件が認められない場合には「現状を維持します」としております。ただ一方で、いずれかの小学校の複数学年に単学級の実態があった場合には、学校配置の適正化に向けて検討をしていくという内容でございます。続いて(3)では「学校配置の適正化に向けての協議の進め方」を記載しておりますが、適正化の実施時期、学校の選定、通学上の安全確保などについて協議を進め、適宜説明会を開催しながら、皆様のご理解とご協力が得られるよう努めていくということに記載しております。

次に6ページの上段のほうに移ります。とりわけ、学校の選定ということにつきましては、まずは学校の環境、すなわち教育的な視点が中心となりますが、まちづくり・地域づくりとの関わりも踏まえながら検討するという、そして、また、

<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>学校の跡地利用については、学校選定後に、市長を中心とした関係部署で、地域からの要望を踏まえつつ、計画的・総合的に検討していくことにいたしております。</p> <p>続いて、本手順のまとめとして、6番、「最後に」として記載しております。ここでは学校配置の適正化について検討を進めることの必要性のほか、教育環境・生活環境等をより良い方向に改善していくことが目的であるということ、また、学校配置の適正化について「検討すべき状況が来れば」、地域の皆様と協議を行い、市教育委員会において具体的に検討を進めていくということを記載しております。</p> <p>では、もう1枚の資料ですが、A3版の2つ折りにしております「平成28年度新たな児童推計手法」と書かれた資料をご覧ください。この資料、左上のほうに、参考ということで記載しておりますが「平成28年5月1日時点」ということで、この資料は、昨年5月のデータを基礎とした今後の児童数推計ということでございます。ただし、既に1年古いデータが起点となっているということで、特に平成29年度の1学期開始時点の児童数では、この推計値と今年度の実数との間で既に違いが出てきております。ですのでこういうことから、この資料は参考、目安でしかないということを前提にご覧いただきたいと思っております。また、繰り返しの説明にはなりますが、学校配置適正化に向けた検討を始める時期の判断には、児童数の推計値を用いることはありませんので、児童数推計は、参考資料としてのみの活用ということになります。</p> <p>以上が説明になりますが、かなり長い説明になりましたので、少しポイントを3点振り返って改めてお知らせいたします。</p> <p>まず1点目でございます。検討開始時期の判断には児童数推計、要するに見込み値は用いないということが1点でございます。この児童数に関しましては正確な見込みが困難でありますことから、あくまで実態を見て判断していくこと1点でございます。次に2点目でございますが、今すぐ検討を始めるということではないということですね。いずれかの小学校で複数学年に単学級が現れた、その時点から検討がスタートするということです。つまり、統合時期に関しましても、学校の選定に関しましても、その実態が現れてから具体的な検討を始めるということでございます。そして3点目でございます。今後、検討を進めるにあたっては、学校・保護者・地域の皆様のご意見やお考えをお伺いしながら、丁寧な議論を進めていくというのが、これが3点目でございます。ですので、市教育委員会で意思決定して一方的にお伝えするというやり方ではなく、様々なご意見を集約しながら方針決定へと導き、皆様にご理解とご協力が得られるよう努めてまいります。</p> <p>以上、3点が大きなポイントでございます。以上が、市教育委員会といたしまして再検討いたしました内容、今後の手順について説明をさせていただきました。ご理解いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。お手数ですが発言の前に、お名前を教えてください。「在籍児童の保護者様」か「未就学児の保</p>
--------------------	--

	<p>護者様」、「地域の方」かについて、お知らせいただきたいと思います。なお、できるだけ多くの方に、ご発言の機会を作りたいと思いますので、ご発言の際には、要点を手短かにお伝えいただければ幸いです。</p> <p>それでは、ご質問、ご意見ございましたら、よろしく願いたします。</p>
<p>参加者 ＜地域住民＞</p>	<p>ただいまの説明を受けた中ですね、その複数学級ができたとき、これはこの資料を見ますと31年度ということに、これが実際起こればそうなると思うんです。あとのですね、タイムスケジュールというのは、どういう期間的なものはどういうふうにかというのを教えていただきたいと思います。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい。期間に関するご質問でございましたが、この適正化実施条件、要するに、複数学年に単学級の実態が現れた時点から協議がスタートするということですので、その期日に関しましても、そのときに話し合いをしながらですね、皆様のご意見を伺ってから決めていくということでございます。平たく言うと、未定ということでございます。</p>
<p>参加者 ＜未就学保護者＞</p>	<p>未就学児の子どもがいるんですけども、単学級が複数というのは、2クラス単学級というのができたら合併に向けて進むと言いますか、単学級ができたら進めるのか教えていただけますでしょうか。</p>
<p>志波学務課長</p>	<p>はい。この推計表のほうをご覧くださいませでしょうか。これはあくまでも推計ですので、もう実態とは数字が違っているということを前提にご覧いただきたいんですけども、例えば、上の段で緑台小学校、まず2年生のほうで、単学級が存在しているという実態があるのと、それと陽明小学校、その下のところですね、上から2つ目の表の中では1年生のほうで、単学級が出ているという実態がございます。ですので、複数学年に単学級というのは、それぞれの学校でですね、この1学年だけではなく、1クラスの実態が出てきた場合、今それぞれの学校で1学年出てきてますので、もう1つの学年のところでも単学級、1クラスの実態が出てきた場合に検討をスタートさせると。そこから協議がスタートするということでございます。</p>
<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>ほかにご覧いただけますでしょうか。 はい、どうぞ。</p>
<p>参加者 ＜地域住民＞</p>	<p>地域の住民です。実はですね、これは学校の統合というのは、避けられないものかなというふうな感じがしております、まあ子どもたちがですね、それで一緒に友好といいますか、なんだろう、いいかなと思うんですが、そのそれぞれの地域がですね、前の説明会のときに色々説明があったというか、質問があったと思いますが、端っこのほうに2つあるんですね。したがって、そのどちらかに統合し</p>

<p>志波学務課長</p>	<p>ようすると、非常に遠いところが出てくる。その3キロ以内にですね、そういうことであればということなのですが、私も見守りをしておりましてね、1年生だったらですね、遠いところを歩いていくのは、非常に大変な感じがします。したがって、その統合した後ですね、そういうその地域、あるいは子どもたちに対して通学の安全を確保するために何かその方策というのは立てられておるのでしょうか。</p> <p>はい。ご質問ありがとうございます。先ほどのこの手順書の5ページのところをご覧くださいませでしょうか。少し私の説明がわかりにくかったのかもわかりませんが、5ページ目の(3)番のところですね、「学校配置の適正化に向けての協議の進め方」というふうに記載をしております。今、ご指摘いただいたその通学上の安全確保ということについては、この上から2行目のところですね、書いておるんですけども、今後その協議を進めていくときに、どちらかの学校を選定するとなったときに、通学上の安全確保策としてどういうものが必要なのかということについても、その時点から課題点を抽出しましてですね、それを1つひとつ解決できるのかどうなのかというところを検討を進めるということです。</p> <p>ですので、今の時点でどこに課題があるというようなきちんとした整理はですね、今のところできておらないということなので、検討が始まってからそこについても皆さんのご意見を伺いながら対処していきたいというふうに考えております。</p>
<p>参加者 <地域住民></p>	<p>まあ、今のところですね、考えておられなくて、まあそういう時点が生じてから協議して確保するということなのですが、現実にはですね、やはりそういうことが起こることが想定されるのですから、それで地域ですね、力をそのもし頼りにしておられるとしたら、いわゆるその学校協力員なんかでも今、数が減ってきています。しかもその中でですね、その通学路が遠くなると、さらにそういったような学校協力員がですね、あるいはその保護者の方々の安全の見守りをですね、強化しないといけないといったような状況が出てくるだろうと思いますね。したがって、その他で、市としてですね、何かやはりこういうことをしてその子どもたちのですね、安全を確保したいということですね、そういうことを今のうちからね、ひとつづつその検討をお願いしたいなというふうに思います。以上です。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>通学路の安全対策につきましては、非常に大切な課題で、今現在、16小学校がある中で、様々な通学距離がございます。毎年、通学路の安全点検という形で、どんな対策ができるのか、何をすべきなのかというのは検討しております。それは引き続き、検討していきたいと思っております。</p> <p>また、この両地区につきましては、現在こういう状況ではあるんですが、ご指摘いただきましたように、安全対策を検討できるタイミングでもありますので、そういったところも例えば「こういったことができますよ」みたいな意見もお伺いしながら、安全対策につきましては、進めていきたいと考えております。</p>

<p>参加者 ＜地域住民＞</p>	<p>地域の住民です。今こちらのほうで、単学級が複数になった場合に検討を始めるということなんですけれども、例えば31年なんかだと1年生34人ですよ。これが36人になれば2クラスになるわけですよ。じゃあ「今年はなし」「来年はどうか」という大ざっぱな非常に不安定な状態で入学式だったりとか、学校生活を迎えられることになると思うんですね。やっぱりもう少しその今もおっしゃったように、統合が避けられないのであるならばね、「もう少しここからです」「そこから検討します」、何か先送りするんじゃなくて、もう少し前向きに全体の意見を聞いて統合に向けて進めていくほうがいいのではないかなというふうに思うんですけれども。あるいはその時点から考えるにしても、今から検討委員会みたいなものをしておくほうがやっぱりね、「2クラスになりました。じゃあ、今からします」とかいうんじゃなくて、やっぱり徐々に準備というのは、色々時間をかけてやっていくほうがいいものができるのではないかなと思います。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>学校が小規模化しましたときに、統合するのか、そのまま存続するのか、いずれもメリット・デメリットがございます。それらを踏まえた上で、教育委員会としましては、統合が望ましいだろうということで、取り組みを進めてきました。現時点におきまして、教育委員会としてその方針は変わっていないんですが、一方で、去年まで説明会をする中で、例えば学校のあり方ですとか、学校運営というのは、保護者の方とか、地域の方の協力をなくしてはいけませんので、そういったところも踏まえたときに今回お示しましたように、実態が出てから改めて協議に入らせていただくということで、少しその手続きにつきましては、方針が変わったところでございます。</p> <p>ただ、ご指摘いただきましたように、準備といいますか、その色々ご意見をいただく機会というのは、時間的にあると思いますので、今回、4小学校でこういった形で説明会をさせていただいた後に、もう少し小規模な単位で手順を説明させていただく機会を続けていこうと思っておりますので、そういったところでまた色々ご意見をいただけたらと思っております。</p>
<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>ほかにございますでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>参加者 ＜在籍保護者＞</p>	<p>陽明小学校、在校生の保護者です。まず最初に推計のほう、実態で実際には動かれて推計のほうは使われないということなんですけれども、これは前の8月のときまでに出ました推計方法では「ちょっとまだ転入転出が加わっていなかったからやり直します」ということで、今回出してこられたということなんですけれども、見ましたらまあ29年の実態はずでに違っているということなんですけれども、実際に、陽明小学校の子どもの数も違っているんで、まあ「推計でしかない」ということのご説明はあったんですが、やはり先ほどから皆さんやはりこの数字を見られて</p>

「ここで減っていくよね」という使い方はされているので、これは前のときの昨年度の夏の推計表よりも緑台小学校のほうがすごく人数が増えて、陽明小学校がすごく減っているような形に推計方法のやり方を変えられてなっているとは思いますが、例えばその転入出の実際の何年度分かの分を見られて、それを将来的にそこにも埋め込まれたような形なのかなと、ちょっと推察してはいるんですけど、そこをちょっと詳しく教えていただきたいのと、もしそれであるならば、まずこのグリーンハイツ緑台、向陽台、水明台というふうに、段々と開けてきているので、家の築年数ですとか、そういう世代交代というのも常に起こってきているので、ちょっとその緑台が昨年度の説明会のときなんか、「新しい家を建てて転入も増えてきているのに」という反対の意見を言っておられる方がいると思うんですけども、その中で、陽明小学校では同じようなことがちょっとずれて遅れてくるということが実際に住んでると見込まれるということなんですけども、それは数字にはやっぱり表れてきてないと思うので、そういう何か以前にも増してあやふやな数字になっているものをここで「あくまで参考です」とおっしゃりながら、すごく減った見込みの人数を出されると「やっぱり減っちゃうんだな」「しょうがないんだな」というようなことで、何か風評被害みたいなんになるんですけど、新しく転入される見込みの方がこの数字見ただけでも、ちょっとやっぱり統合になりそうだなということで、あらかじめ何かこういうごたごたしそうなところに行くのはやめて校区変更しておこうとか、別の他市町に行こうとかいうようなことにもつながってくると思うので、ちょっとすごく曖昧すぎるデータなので、前に推計をお示しされた手前は出されるということだとは思いますが、ちょっとこの載せ方というのはちょっと軽率というか、あまり好ましくないというか、その減らす方向にもっていきいかなというふうに思ってしまうので、実際のこの手順についてもなんですけれども、文部科学省の適正化の「公立小学校・中学校の適正規模、適正配置等に関する手引き」、文部科学省の分を参考に、もとに言っておっしゃっているんですけど、そちらのほうはホームページとかでもインターネットのほうでも調べると出てくるので、見せていただいたんですけど、6学級以下では、全学年単クラスの場合、それから1から5学級、6学級、7～8学級、9～11学級の場合というふうに分けて書かれていると思うんですけど、その単クラスがどちらかの学校で、複数学年が出た場合というのは、この9～11学級の場合ということで想定すると思うんですけども、その文部科学省の手引きを見ると、9～11学級の場合「統合」という言葉が出てきてもないぐらいのまだレベルで、これがこの説明の分だけ見ると、すごく整合性があるようにも見えるんですけども、そもそもまだ統合とかという話が全国レベルで言うと、この規模だと出てこないレベルの話で、何をこの地区、清和台地区だけ何かすごく急いで「減ってるよ、減ってるよ。これから減っていくよ」ということを逆にアピールされているような感じで、何かちょっと余計に減ることに少子化に拍車をかけているようなやり方をされてると思うので、手順を決めるのであればこれだけ話し合いの場を今後持っていくということであれば、そもそもその単学級、複数学年がどちらかの学校に出た場合という定義からそれが妥当な

のかどうかを、保護者とかの意見を聞いて定めていただくべきじゃないかなというふうに思います。

それと、もう1つは「適正化」という言葉が使われて「統合」という言葉が使われてないんですけど、先ほどおっしゃっていただきましたけども、小規模校として残すとか、あとまあ校区変更して他の地域とあわせてするというのもまあちょっとその急にやると問題があるということは、統合についてと同じぐらいか本当にややこしいぐらい校区変更はまずいというふうにお聞きしたので、以前に、それは慎重にやらないといけないと思うんですけど、いろんなやり方がある中で、もう何か統合が既定路線のような形で、そちら押しで話をされている上で、まだしかもその100人以下でもない全部が単学級というような統合レベルでもないところでこうやって話を早めに持ちだされることで、グリーンハイツの少子化にどんどん拍車をかけていかれるような感じがします。実際もし、すごくちゃんと保護者の方が「これぐらいの規模だったら統合のほうがいいよね」ということで、賛成多数で統合されるんでしたら何も反対はないんですけど、ただ、上意下達ではなくて、話し合いでやっていきますと言いながら、ほかの選択肢がないような話し方をちょっと持っていきかたをされてるなという感じがとてもするので、まずはグリーンハイツの、それからまちづくりの視点でということを持ち出されましたけど、まあ以前の説明会でしたら、川西市があんまりお金がないんだとかいうお話ですとか、市長部局のほうに任せてというようなことをお聞きするんですけど、その公共施設の建物をあげることのメリットとかそういうこと以前に、子どもの教育にとってどうかっていうことであれば、最優先に考えていただくのが教育委員会だと思います。保護者たちはそういう目線でやっぱり自分たちの子どもにとって、どういう学校がいいのかという視点で考えています。まちづくりということでも「統合して、じゃあ効率化して、何か結構空いた建物を何かに使えるのがいいよね」と言うよりは「多分、そんなふうには過疎化してる地域なのね」ということで今どんどん転入者が少なくなって行って、ちょっとその公立幼稚園もなくなっていくというようなことも何か決まって並行して進められているということなので、ちょっとこの街ゴーストタウン計画じゃないのかなという心配も出てきています。何か本当に統合して子どもたちの教育に良くなるんでしたらいいんですけど、それは統合ありきのベースでちょっと進められているこの手順というのはどうかというふうに思いますので、まず推計表がちょっと水明台地区の数字というのが、どれぐらいのどういう決め方でされたのかをちょっとお聞きしたいのと、あとその単学級が複数学年ということが教育委員会の決定で決まっていることで、そちらベースで進められるというのは、地域住民の保護者の声を聞いてないんじゃないかということに対してのお考えと、お聞かせいただきたいと思います。

あと、もう1つは、もし統合が仮にされた場合も跡地利用については、統合決定した後で、市長部局のほうでということなんですけど、やっぱり牛尾教育長も何かの折に言われてましたけれども「ふるさとを大事にする心を育てるというよ

うな教育をする」「子どもたちにふるさとを大事にしてもらおう」というようなことを毎回いつもおっしゃってるんですけども、やっぱり小学生の6年間過ごした小学校というのが、地域の一番ベースのふるさとになるものだと思いますので、ただ、市の施設として普通に戻って何に使ってもいいよというものではなくて、やっぱりそこは子どもたち、在校生、卒業生、保護者というのが、どう使われるんだったらまだ納得というような決め方をしていっていただくのでないと、ちょっとそのふるさとを大事にするということとも合っていないように思いますので、そこはもし話し合いを進めていかれるのであれば訂正していただいて、選定後に市長部局のほうで行うのではなくて、地域のほうでとおっしゃってますけども、それは統合の話の中に十分その中の重要な議題としてこういう使い方なんだったら得だけど、それだったら私たちの学校は渡せないという気持ちもやっぱりありますので、そういうようなことは一緒に合わせて考えていくべきのものだと思うので、そちらのところはちょっと改めていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

志波学務課長

はい、ご意見ありがとうございます。まずは推計表に関しましてということですね、ご指摘いただいたわけですが、この推計表のそのデータそのものが逆にその少子化を見せつけているんじゃないかというようなご意見だったかなとも思います。この推計表に我々のほうから何かその他意があるわけでもなくてですね、これ自体はこれも既に市議会のほうにも資料として出させていただいているものです。それと同じものを今回、皆さんにお配りしてるわけなんですけども、資料についてはできる限り皆様にオープンにした形でやりたいというのが我々の意図であって、この推計データをもって何か誘導しようとしているものでは決してないということ、これはまずご理解をいただきたいなと思います。

それと、複数学年に単学級の状況が出た場合に、検討始めるということに関してですね、全くその統合ありきじゃないかというようなこともおっしゃっていただいたわけなんですけども、確かにそのこの手順書の中にもお示しておりますように、教育委員会としてはこちらのグリーンハイツ地区については、この少子化の傾向が続く限りは、いずれかの段階で統合がベターな選択なんじゃないかなというふうに考えてはおります。ただ、これは決して答えではないということ、冒頭の説明でもですね、すべて皆様と一緒に考えていくんですよということで、未定ですというような表現をさせていただきました。そこについてもその言葉のとおりでありますので、あくまで今の時点からその統合ということを決めているというわけではない。この手順のタイトルにもありますように「学校配置の適正化」という文言を使わせていただいています。

当初は学校の統合についてということで、資料を提供させていただいた経緯もあるんですけども、そこについては、この適正化という言葉の意味の中にはもちろんその過去の統合ということもあるんですけども、先ほどおっしゃっていただいたような校区の変更であったりとか、あるいはその小規模校での存続という

<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>のも選択肢の1つとして入ってくるわけです。ですので、今の時点でそれを我々のほうから誘導するつもりもありませんし、決めつけているわけでもありませんので、そこはまず皆様のお声を聞いた中で、このグリーンハイツ地区については、将来性を考えたときに何がいいのかということと一緒に考えていきたいなというふうに考えております。</p> <p>跡地利用等の考え方なんですが、まずは教育委員会としまして、まちづくり全体を考えて統合がいいだろうという判断をしたわけではなくってですね、教育委員会としましては、教育環境を考えたときに、先ほどおっしゃっていただいたふるさと教育等も含めてですが、教育環境を考えたときに一定集団教育ですので、一定規模の集団が必要だろうということで、統合案を27年度にお示しさせていただいたというところです。</p> <p>ですので、あくまでまちづくりの効率性ですとか、そういった観点で取り組みを進めてきたわけではまずございません。跡地利用につきましても、まずは教育委員会としましてはまずは教育環境がどうあるべきかで、仮にその統合ということがご理解いただけて進むのであれば、その次の段階で跡地利用という話が出てくるのではないかとということで、これまではお話をさせていただいております。ただ、今までの説明会ですとか、今のご意見にもありましたように、跡地利用も含めてでない、地域の方、保護者の方も検討がしにくいというようなご意見が多いのであれば、そのあたりはまた市長部局と調整のほうはしていきたいというふうに思っております。</p>
<p>岸学校教育室長</p>	<p>すみません、失礼します。複数学年でというところでのご質問もあったと思うんですけども、本当にこれまで説明会のほうをさせていただきまして、やっぱり一番そのご批判が多かった場合はそのこちらの姿勢として、決定事項を一方的に伝えるというところのまあご批判が非常に多くございました。そういった部分について本当にもう真摯に受け止めて、やっぱり私たちは決して一方的にお伝えするんじゃなしに、保護者や地域の皆さんとしっかりと話し合いをしながらやっぱり進めていくというところをやっぱり大事にしていかなないとだめだというふうに考えております。</p> <p>その中で1つ、その児童推計、あくまでこれは予測の数字ですので、予測の数字ではなく、本当に子どもたちの学級の人数、その実態からしっかりそれを踏まえて話し合っていくことが非常に大事じゃないかなというふうに考えました。それも1つの、ある年度に1つの学年だけ学年で1つの学級という形になるのではなく、それがやっぱり一時的なことというふうに考える場合もありますので、それが2つの学年で、単学級が発生したら今後継続的にこういう状況になってくるのではないかなというところから、そういった実態を踏まえたところから皆さんとお話し合いを進めていくということが、一番大切じゃないかなというふうに捉えた次第でございます。どうかご理解いただきますようよろしくお願いいたします。</p>

参加者
<在籍保護者>

すみません、児童推計のことなんですが、先ほどの方もおっしゃってましたけど、35人なら1人増えたら2クラスでしょというようなことのご指摘があったと思うんですが、実際、陽明小学校、今年、まあ1人、2人足りず1クラスということなので、転入があれば2クラスになるということもあります。

それから、風評被害を私は申し上げた分なんですが、昨年度、緑台小学校のほうがなくなって、陽明小学校になるよというような話があったことの関係で、今のこの29年度の2年生ですけれども、ここが他地域に流れて先にじゃあ前もって陽明に行くほうがとか、ややこしいから多田ほうに行っとうかとかいうようなことで、緑台小学校も昨年度の1年生が減ったというようなことも聞いております。そういうことで言うと、ちょっとその推計で使うだけですと言いながら、そのデータがあやふやで、それと文部科学省の先ほどの適正化の手引きのほうですけれども、そちらのほうにも書かれていますのは、その各学級数だけではなく、その中の人数も勘案すべきというふうに書かれてたと思います。結局、きちきち、詰め込みの35人それは兵庫県が決められて、川西市が決められてという数字だと思うんですけど、そこをぎりぎりのところですごく人数1学年は多い、1クラスの中で35人すごく多くてきつきつでやってるんですけども、それでも1クラスということでもその今の手引き、今の手順決められた分ですと、もうさあ1クラスだ、単クラスだということになってしまって、実際に児童数が減っているということの数字と違うと思うんです。

全国的に言いますと、学校全体が100名切ったときとかいうようなレベルであったりとか、統合進められているというのもお聞きしますので、ちょっとその295人もいて、さあ毎年1年生が1クラスなのか、2クラスなのかとって、毎年毎年すごく親たち不安定な不安な気持ちで、しかもどちらの学校になるかまだわからないというところまで話を戻されて、統合はする方向だよと言われたときに、緑台小学校に行くのか、陽明小学校に行くのかみたいな児童の取り合いじゃないんですけども、「あっちはどうやったんやろう」「こっちはどうやったんやろう」ということで、すごく何か毎年ぎすぎすした感じで新年度を迎えるのも保護者としてしんどいなというのがあります。

それと「昨年度のうまく説明ができなかったということを反省しております」とは言ってくださってるんですけども、昨年度やっぱり実際に陽明小学校の保護者と、緑台小学校の保護者の間にやはりちょっと何ていうか精神的な亀裂みたいなのがありまして、何かそういう向こうの説明会に行くと「それなら陽明小、潰せ」とかいうようなご意見も聞きましたし、そういうふうなことでやっぱり言い争うとか、出てきてしまうとかいうのもありますし、私、個人的には昨年度PTA会長をさせていただいたんですけども、「陽明小のPTAの会長がもし統合になったら、緑台小学校と、陽明小学校出身の生徒のクラスを分けるべきだと言ってる」と、ひどいことを言ってるといううわさが流れたっていうのを周りまわって友達から聞きまして、そんなこと一言も言ってないんです。そんなことを言うわけもない

	<p>けど、うわさになって、知り合いの陽明、緑台小学校のお母さんに「そんなこと私、言っていないからね」と言って打ち消しに回るのが精一杯で、そういうような何かこう数字には出てきませんが、ひどく精神的に良くない状況でした、昨年度は。これを早めに検討するのがいいでしょうということで、まだ11クラス、10クラスのときに話し合いを始めるのは本当にいいかと言うと、やはり本当に毎年毎年、児童数、今年1クラスなんやろうかと思ったり、陽明なんやろうか、緑台なんやろうかとか言ったりしているというのは、もう緑台と陽明の間に亀裂ができてくるのが昨年度の経験からすごく見えていて、一旦白紙に戻るのかなということでしょう。やく収まってたんですけど、やっぱりこの後、緑台小学校さんでそれを話すのかわからないんですけど、本当に地域として何かちょっとあまりよくない環境になっています、このことが持ち上がったことで。</p> <p>それで川西市全体の手順というんでしたらうなずけるんですけど、清和台と、陽明、緑台、この地域だけですよということになると「この地域は減っていますよ」ということを何回もアピールをしているようなもので、これはやっぱり一度そういう方針かもしれないんですけども、本当に人数が減ってくるのには、一旦白紙に戻していただかないと、あるべき教育って何だろう。子どもたちは少子化と言っても他の市では子どもを呼ぶための教育に、どういう方針していったらうちの市に転入が増えるだろうかということを考えていて、いろんな戦略を練られていると思うんです。それが何か泥縄式に「減ったから減らしましょう」「学校をなくしましょう」ということではなくて、本来すべきはこっちの統合に向けてのことよりは、子どもたちを増やすための他市町村からも呼べるような教育するのはどういう教育かなということを考えていただくことが本当に必要なんだと思うんです。実際もうグリーンハイツ地区と、なぜ陽明地区だの、清和台地区だけなんですかということをお聞きしたときに、まあコミュニティが1つだからということも要件の1つということをお聞きしたんですけど、コミュニティ協議会を置かれたのは市の側で、それは市が協議会を1つにと行って、一応ほかの地域では1小学校に1コミュニティなのに、ここだけは2つの小学校に1コミュニティになっているという事実を作り上げた上で、その話を持って来られるのはちょっと違うと思うんです。</p> <p>それと、そのまあグリーンハイツの自治会、</p> <p>(簡潔にお願いします)</p> <p>グリーンハイツの地区のコミュニティ自体は1カ所でやっておられると思うんですけども、小学校が44年も45年も経ってきますと、実際にはもう別の文化になってます。地域の面倒を見てくださっているいろんな方々から見ると、陽明のほうも緑台のほうもかわいいねということで、面倒みていただいていると思うんですけど、実際には緑台と、陽明と、それぞれやっぱり自分のところにそれぞれ愛校心あってやっていますので、統合ということを簡単には考えられないというのが実態だと思います。</p>
他の参加者	
参加者 <在籍保護者>	

伊豆参事兼学校指導課長	<p>すみません、話を戻します。推計方法を具体的にどのようにされたのかをちょっとお聞かせください。</p> <p>それと、今の私の意見についてどのようなお考えかをお聞かせください。</p>
志波学務課長	<p>すみません、また、多くの方のちょっとご意見伺いたいと思いますので、ちょっと手短にまたお願いいたします。</p> <p>はい。まず推計方法についてということでございます。この手順の中でお示しておりますのが3ページのところで、下の(3)から児童推計手法ということでございます。従来は、5月1日時点の住民基本台帳データ、これをもとにその実人数を後年度にスライドさせていくような方法でのみで推計をしておったんですけども、その後、この見直しの後に、小学校区ごとの過去5年間の転出入などによる児童数の推移の傾向を把握するというので、これを反映させていくというような形にしております。これがその見直し後の新たな推計手法ということでございます。ここにありますとおり過去5年間分のですね、この地区の児童数の推移の傾向を把握させていただいております。それを住民基本台帳データに上乘せしたものがこの推計表に出てる新たな数字であるということで、ご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それと、文部科学省のその手引書のほうのことについても、少し触れられてお話をいただいているところですけども、ここです、おっしゃられたとおりその児童数の状況も見直されたということになっております。ここでは9～11学級になったときにどういう状況かといいますと、9～11学級になれば今後の教育環境のあり方を検討することが必要になると。検討を始めるレベルに達してまずよというようなやり方を我々のほうではしています。ですので、この時点から要するに複数学年から単学級が出てきた時点、9～11学級になった時点で検討を始めさせていただくということでございます。ただ、今おっしゃいましたその確かにこの児童推計数は非常にその曖昧なものでございます。これが数字がさらにですね、逆に混乱を招くということを、それは我々としては検討させていただいたんですけども、一定、これは提示させていただいたほうがいいというような判断の中でさせていただきました。これが平成28年度ということで、また次のですね、数値も出していかないといけないというのが今の状況なんですけども、ただ、推計に関しては、あくまで曖昧でわからなものが非常に多いです。ですので、複数学年に単学級が発生して検討を始めた時点で一応、今後の先行きを考えたときに「少し様子を見ようか」というような判断もあると思うんです。それも含めて検討しますというのが今後の手順の進め方ということで、ご理解をいただきたいと思います。</p>
参加者 <地域住民>	<p>座ったままで失礼します。地域の住民です。今日は手順の説明なんですけれども、随分前に一遍見せていただいたんですが、私なりに考えた水準なので、変なこ</p>

	<p>とを聞くかも知れませんが、今、単学級が複数学年にできたときから検討を始めるということで、それは何も統合ありきじゃないというようなお話の中で聞かせていただくんですが、ただ、検討が始まるとなると、どうしても雰囲気としては統合ありきとってしまうのはいた仕方ないと思うんですね。私の思いとしては、例えばその複数学級、単学級が複数学年に及んだから検討を始めるのをもう少しずらして、それが例えば3年連続ね、続いた段階で検討を始めると。それについては一番最初、他の方がご質問されましたけど、「期間はどのぐらいですか」と聞かれたのは、例えばその段階からね、5年以内に「統合する」とか「しない」とかという結論を出すみたいなそういうことも未定だというふうにおっしゃったと思うんですが、私は単学級、複数学年が3年連続して起こった場合は、そこから検討を始めてそのことに結論については、5年とか、7年とか色々あるでしょうけど、それまでに結論を出すんだみたいな方向をもうちょっと考えてみていただけないかなと思うんです。でないと、何かずっとまな板の上でやられちゃうのか、切られちゃうのか、切られないのという感じで、お母さま方は本当に1年ごとどきどきされると思うんですね。だから3年続いたらもうあきらめて、何か方向が動くんだなというふうに親御さんは思われると思うので、ちょっとその辺も考えていただけたらなと思います。</p> <p>それと、もう1つ、私も発言しますときは、今日は陽明小学校のご父兄方ばかりではないと思いますけども、緑台小学校さんも後でありますけども、うかつに発言ができないのはどっちの肩をも持たない、地域は1つだということですね、もう陽明のお母さんたちが「もう緑台小学校の人たちはややこしいわ」って口にした段階で本当にそれは歩きますから、くれぐれも子どもさんの前でうかつな発言をお互い気をつけましょう。重々それを日ごろ感じながらこのことはすごく神経を使う問題ですので、くれぐれもお母さん方もその辺をご注意いただけたらなと思います。お願いしておきます。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>はい。検討を始める時期でございます。色々な考え方がございますが、教育委員会としましては、教育環境をより良くするためにできるだけ早い段階から検討はしたいというふうに思っております。それとその検討を始めた後の進め方なんですが、その複数の学年に、単学級が出た言いましても色々なパターンが考えられます。1年生と40人学級が始まる5年生であったり、また単学級と言いましても35人の単学級の場合もありますし、もう少し少人数の単学級もありますので、そのときの状況を踏まえて検討をそのときから検討をしていきたいというふうに思っております。</p>
<p>牛尾教育長</p>	<p>失礼します。いくつか出た中にですね、平成6年に確かに、市教育委員会としては答申をもらいました。かなり古いですけど。そのときは確かに5つの中でグリーンハイツと清和台地区については、将来的には統合、そのときは学校配置、そのときは学校配置とはいいませんでしたけど、再編していくことが必要だとい</p>

	<p>うことをいただいたんです。ふるさとを本当に大切にするという面では、グリーンハイツのほうもですね、グリーンハイツのほうも市としても親元近居助成制度も含めて、あと教育委員会としてもこの義務教育の緑小・陽明、緑台中学校がですね、中学校教育、小学校教育をしっかりとやっていこうということについての取り組みをしてる中でのことです。ですから、実際にはこの適正化実施条件に関して、複数の学年に単学級が出るというより、出なければずっとこれがですね、当然2つの小学校がずっと存続していくわけですから、そういうことを一生懸命努力するんだけど、結果的にですよ、どっかの時期でということになると、例えば今回出しているのが6学年中で複数の学年、2つの学年が単学級になったとき、それは文部科学省の目安の確かに11、10、9学級ですね、その時期になったら全校生とか、そのときの学級数とか、今後の教育上の課題と、それから今後の子どもたちの推移というものを検討して適切な教育環境を整備していきましょうという目安は国の基準でもあります。その段階でのところにまずあわせて再検討に入ったのも事実です。ですから、実際に11、10、9とならなければ、12学級以上は適正規模なんですから、そういう状況を精一杯教育委員会としても、市としてもですね、若い世代の方が帰って来れるような取り組みをしていっているわけです。でもそういう状況の中で1,000人規模だったものが現実ですね、300人前後になってきた中で12学級が、11とか9とかなるそういう適正規模に近い状態ですけども、これから先、心配な状況があるなというところに来てる状況で、6学年中、2つが1クラスになってきた、そういうところをひとつ目途として一緒にですね、これから先、翌年はまた消えてですね、また増えたりして戻るかもしれませんが、続けて3クラス、4クラスと4学年と続けて、単学級が増えていったときには、一気にそういう状況という単学級の状況が来たときには子どもたちの教育上の条件としていいのかなということが問われると思います。そういうことを考えたときには、本当に複数学年に単学級ということは10学級です。10学級の学校になったときに、その時点から将来のことも現実的な課題もこれまでの全校生の人数も含めてですね、一緒に検討していきましょうということでお話をさせていただいているところです。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	ほかにございますでしょうか。
参加者 <地域住民>	<p>地域の者です。私は、子どもがですね、何年前にこの小学校でお世話になりました、非常に陽明小学校というのは愛されていますのでなくしちゃいかんですね。やっぱり学校というのは、20年、30年じゃなしに、50年、100年といかんとね、本当にいい意味での伝統が生まれてこないというね、いわゆる校風というものが生まれてこない。そういう意味では、過疎過疎と言うてますけども、本当の過疎の自体がね、分校があって生徒がもう2人しかおらないと。それしかおらない。こういうところがやっぱりね、最終何か考えていかないとあかんと思うんですけど</p>

も、先ほど、教育長がおっしゃられたように1,000人のところが300人、これは非常に過疎になって心配やというふうなことが言われてますけど、300人はおるといふような発想に立てないんでしょうかね。少子化の中でこれから子どもを大事に育てていかないかと。少ない子どもをですね、立派に大事に育てていかないかということになれば、やはりそれなりの教育方法を備えなあかね。

昨今もテレビでやってましたけども、子どもが多すぎてですね、子どもの面倒を先生が見きれへんと。部活があり非常にいろんな学習があってですね、先生の対応も大変やというふうな話もかたや聞いております。ですから、余計ですね、この少子化になったときにどういう教育方法をするのかと。どういう教育がええのかと。また教育と言いましても、別の観点から見てみますと、市の財政を圧迫しているわけね、2つ学校を市の財政が減る中で維持していくのは大変やという、そういうことから考えていくので今、教育委員会のほうの資料を見せていただきますと、そういうふうな端的なですね、効率化だけの発想なんです。僕は35名言うてますけども、35名がいいとは思っておりません。少なくともですね、十分な教育をつけていただくようになると。それが財政とマッチしてですね、できるような学校であれば尚いいと思うんでね、そういうふうなことをこの教育委員会がどれほどのことをご努力いただいているのかというのは、私も素人ですからわかりませんがね、そういうことが冊子からは全く見当たりませんでした。私、初めて出させていただきましたけど、こんな議論やったんかなと思いました。やっぱり財政から見た面、それからまちの発展から見た面、それから人々のその住みやすさ豊かさから見た面、こういうことを総合してですね、考えていく教育が将来どういうふうにあるべきなのか。その中では少子化がもうはっきりしてるんですね。その中でやっぱりせつかくある学校をですね、2つを1つにしまえという簡単なことで済むんでしょうかということですね、もう一度その大事な子どもを育てる立場の教育委員会の皆さん方でね、もう1回考えていただいて、先ほどから色々出てる問題もなるほどと思うんです。

私も初めて出させていただきました「ああ、そういう考え方もあるな」と「そうやな」と。問題はこのグリーンハイツをですね、二分するようなことをね、してほしくないですね、ひとつは。ですから、そういうふうな配慮でもって、総合的に市の中での教育費のあり方とか、また教育の子どもの子育てとかいうことをですね、もっともっと事前に検討することが山ほどあるんじゃないかと思うんですけどね、そういうことを前提にしてやむを得ないと。これしかないということであればわかりますけども、まだまだ不十分さが目立つようなことじゃないかと思えます。以上でございます。

志波学務課長

はい。ご意見ありがとうございます。まあ300人いるという発想ができないのかというようなお話でございました。今回この手順書の中でも、小規模校についてはデメリットばかりじゃないんですよというようなこと、小規模校のそのメリット・デメリットというようなところを含めてですね、この手順の中で整理を

牛尾教育長

させていただいています。まあ1つ小規模校であれば児童1人ひとりに目が行きやすくなったりとか、きめ細かな教育ができるというようなメリットも出てくるようなかと思っています。ただ、我々がその今回ですね、この手順をお示しするのに当たって念頭に置いていますのは、教育の平等性ということも1つ考えています。市内の小学校ですね、複数ございますけども、そんな中で、この単学級の状況が出てるといところは非常に少ないんです。市内全体で平等な教育環境を提供していくという視点に立ったときに、やはり適正化については検討していくべきじゃないかというような発想で、今回の手順を作らせていただいているという状況です。

それと1点、お話しされた財政の効率化という視点もですね、おっしゃっていただいたんですけども、決してそれが最優先されているわけではありません。あくまで教育上の視点が一番と考えております。その議論をなくして財政の話もできませんので、財政がひとつ大きなその判断のウエイトを占めているかと言ったらそうではないということ。それはひとつご理解をいただきたいと思います。

あと、その他その小規模校で存続する、学校を残すということについても、もちろんこれ検討が始まった時点ですね、その中で一緒に考えないといけない大きな項目の一つではあると思います。もちろん先ほど来のお話の中でもありますように、統合が決めてあって、ありきじゃないよというようなことをお示ししてるんですけども、小規模校の存続ということについても、それがいいのか悪いのかということについても、この地区でそれがベストな選択なのかどうなのかということについても丁寧にご意見を聞きながら進めていきたいなと思っておりますので、ご理解いただきますよう、よろしく申し上げます。

ちょっと私のほうから補足させてもらいます。本当にさっきですね、地域の方ですけど、ご意見いただいたのは本当にごもっともだと思っております。本当に教育のために、子どもたちの教育のためにグリーンハイツや清和台で今、進めている中でですね、このことが本当にいいのかということ考えたときに、確かに私も言いました。今、国全体でもですね、複式学級とか6学級とかですね、7、8学級程度の学校というのは、国の全体でも相当あるわけですが、地域の中で。それは過疎じゃなくてですよ。兵庫県とか、阪神間でもございます。そういう中で、本市の場合にそういうところと比べてもですね、また状況が違うわけですから、今300人程度、本当にこれは適正規模です。それに近い状態です。ずっと今、推移してる中で精一杯のそれは教育としても、市としても若い世代が入って来られる、そういう取り組みということはしていかなければなりません。そういう状況の中だけでもこれから将来ですね、万が一ですけども、将来本当に例えばひとつの学校が20人、15人とそういうクラスの状態がずっと2つの学校で続くということがあったり、例え一つの学校がね、そういう状態になったときに子どもたちが行事を一つ、授業を展開していく上においても自分たちの意志決定することとか、葛藤の中で社会性を磨いていく中で、そういう状態が将来的に続くんだ

	<p>ったらそれはいいのかなということ考えたときにですね、やっぱりそのそういう状況になったときには将来何年後かわかりませんが、そういうときには地域の方と保護者の方と意見を聞きながら、そして一緒に考えてですね、もしかしたらこのグリーンハイツの中でも一つの学校でやっぱり2クラス、3クラスになるかわからないですけども、そういう学校にしていくほうがよりいいんじゃないかという時期も来るかと思うんです。そういう面では、今は2つの学校で本当に教育委員会としても若い世代が入ってくるそういう努力はしていくわけですけども、市としてもしていくわけですけども、そういう状況が難しくなれば、そのときには検討して考えていかないかという面も、1つの手順の中の条件として2つの単学級が出て1クラスになってきたと、もう35人の単学級が一気に5人、10人にはならないでしょう。でもそういう状況になって次の学年はどうかとか、地域の方には心配事になるかも知れませんが、努力していく中でですね、そういう時期が来たときには、どうしたらより良い学校ができるだろうか。子どもたちのいい教育条件はどんながあるんだろうということも並行して考えながらですね、この地域の小学校教育のあり方というものを考えていきたいと思っております。</p>
<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>ほかよろしいでしょうか。</p>
<p>参加者 <地域住民></p>	<p>地域の住民です。私ずっと毎年出てまして、何か今回は随分変わったなという、やわらかくなったですよ。昨年の8月まではもう統合ありきで、今は緑台小、ちょっと延ばしているだけだという話だったんです。それでどちらのお母さんたち、保護者のお父さんたちも、ああこれはもうやっぱり今日言われてるように心が落ち着かない、子どもたちも落ち着かない、そういう気持ちだと思います。でも今日聞きましたら何か随分変わられまして「地域の実情に応じて、地域とともに学校づくりの視点を踏まえ、保護者や地域の方々の理解・協力を得るため丁寧な議論を進めていきます」という教育長さんの意見も随分変わってしまってるんですよ。それは純粹に信じていいのかということをお聞きしたいのと。</p> <p>それから、先ほどから出てますように、昨年もですね、陽明小で話されることと、緑台小で話されるのがちょっと違うんですね、どちらも出ると。今日は違わないと思うんですけど、そういうことが変わらないようお願いしたいことがあります。</p> <p>それから、先ほど聞いてまして、学級数が減ったらと言ったら皆さんどきどきするんですね。この学級数を減らすってわけじゃなくて、やはり合計の1年生から6年生の合計、まだ300何人もいらっしゃいますしね、どちらも300何人、これがどちらかで100人になった時点で考えるというようなことを検討していただきたいと思います。やはり先ほど山の中の1人、2人が卒業しているのを見ましたら、先生も一生懸命1人でも一生懸命やります。卒業まで。そういうことを考えます</p>

と、本当に300人はまだまだ多いです。

それから、合併となりましたら、この表で推計でいきますと、緑台のほうが陽明に合併ということだから、陽明のお父さん、お母さんが今日来てらっしゃる。この推計を見たらびっくりだね、データはびっくりだねって、そういう気持ちで固まると思うんですね。こういう推定のデータというのは、わからないことでしたらこれからまちづくりをしていくために、私たちも努力してるんです。「言えるように」「来てね」というように。皆さんまちづくりのために。それで教育委員会の方もまちづくりをするために減す、まちづくりをするということは減すということではありません。どうか若い人に来てもらうようにということで、このような推計を出す「ああ、こんなだった」と言って、どっかでうわさがうわさと呼んで、吹聴が飛んでやはり良くないんです。だからこの推計というのは、あくまで字のこの表面だけでなく、実際にはわからないことをこのように出すことは不安を煽るだけだと思います。ですから、100人以下にもしなったら何か考えていくというようなことであれば、皆さん安心して10年ぐらいは「あ、まだ大丈夫だ」「子どもの教育、一生懸命ここで6年間は卒業できるね」とか、安心できるんですよ。これが本当に毎年毎年、安心できないんですね。それにそういうことがありますし、昨年ですね、4月、陽明小のほうに転勤して来られた方があるんです。うちの近所で。その1年生であられました男の子です。そしたらすぐ登校拒否になられまして、私も「どうしたの」って聞いても言わない。トイレに入って出てこない。お腹が痛いんだ。転校しばらく。いや、どうしたのかな。親は「行きなさい」って言います。そうすると、子どもは余計にしぶしぶ行ったりします。そうしますと、とても子どもの心には傷つきますね、1年生ですから。4月じゃなかったんです。ごめんなさい。昨年の8月の引っ越ししてこられて9月です。昨年の9月でした。ですから、中途半端なときに1年生に入られてますので、余計に。そしたらやはりよく聞きましたら、そのお子さんがいじめられていると、陽明小で。それでどういういじめにあったかという、先輩に追いかけられた。2人の子どもに追いかけられました。それにつきて、ちょっと校長先生のほうにはちょっと言いましたけど、「しっかり見てください」と。それがですね、合併しますと、やはりもっといじめがどちらかに合併してもいじめというのは消えるわけじゃない。いじめがなくならじゃないですか。皆さん、自殺してますね。いじめはなくなるんですよ。なぜかあれだけの。私もそれを心配しましてやはり100人ぐらいにどっちかがなったら仕方ないと今は皆さん考えていると思います。今、ふるさとづくりって子どもたちのやっぱりを大事に、保護者の心を大事に。

それから、グリーンハイツの住民の陽明と、緑台の学校も大事に、つくっていただいた校歌もあります。そういうものをつくっていった歴史をつなぐためには本当に先ほど言われた100年ぐらいはかかります。そういった、良かったね、陽明も緑台もできて良かった。若い人がみんなが帰ってきて良かった良かった。え、無くなるんだって。何でって言ってらっしゃいます。うちの娘も40なんぼなってますけど。そういった出た学校が無くなるってとても悲しいことです。松風幼稚園もそ

伊豆参事兼学校指導課長	<p>うです。悲しんでいらっしやいます。ですから、そういうのはやはり無くすのではなくて、ふるさとづくりには増やしていくというのが教育委員会の方針だと思います。それから国がですね、日本が、</p> <p>すみません、ちょっと手短でお願いします。</p>
参加者 <地域住民>	<p>はい。日本がね、国が発展するのには、幼児教育が小学校教育のもっとも大事だと書いてます。そういうことですが、結論じゃなしに、幼児教育と日本が発展するために今、日本がめちゃくちゃになっていますけども、世界中が、発展していくためには、教育が大事なのでしっかりとお願いしたいのと、100人くらいと言っているように、学級数ではなくて合計でお願いしたいと思います。それをお願いいたします。</p>
中西総務調整室長兼教育推進部参事	<p>ちょっと繰り返しになりますが、統合につきましては、私どもはメリットばかりと思っているわけではございませんで、当然、統合によるデメリットもあると考えております。そういうところを総合的に考えて、現時点では教育委員会はそういう方針であるわけなんですけども、今後におきまして、先ほどからご意見いただいていますように、例えば教育委員会がデメリットと思っているところについてはこういうことで解決できますとか、こういうメリットもあるんじゃないですかみたいなところを色々ご意見お伺いしながら、進めていきたいと思っております。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>ほかにご意見ございますでしょうか。</p>
参加者 <未就学保護者>	<p>未就園児の父親です。私、半年ほど前に池田市のほうから転居してきました、まあ考えている方も他にもいましたけども、この統合とかそういうのをホームページで公開されているというのもあって、私もそういう動きを知った上で越してきたわけなんですけども、そのときは、陽明小学校が残るという情報で聞いてたんで、今日ちょっと何かまた戻ったんですかね。そうなんだっていうので、ちょっと驚いています。</p> <p>それでこの推計手法の数字なんですけども、何て言うんですか、減っていくのと、まあ努力されているというお話はあったんですけども、何となくその議論を聞いていると、減っていくのを待っているというような気がしまして、恐らくこういう数字が出せるということは、まあ逆にこういう施策を打てば2クラスが維持できるというそういうシミュレーションが出ているのではないかなと思います。なので、こういう場でまあ市の方と、地域の方でお話をされるのであれば、その増やしていく話と、それでもこうなった場合はというその2つの話をしたほうが前向きな</p>

志波学務課長

んではないかなと思います。

まあ私は池田から越して来たんですけども、感覚的にやっぱり周辺の市と子ども、子育て世帯を取り合いをしている状態なんだと思っています。まあインターネットでも、住宅雑誌でも、どここの市ではこんな施策があるよと、大体みんな知っています。医療とか給食もそうです。なので、まず条件というのは、どんどん弾かれていっちゃうんで、まあそういうところをいつまでも議論しているのじゃなくて、いつかはやるよって、するとやっぱりみんな踏ん切りがついて、例えばグリーンハイツであれば、戸建てでちょっと土地があるのがいいなと思ったら、かなり高い選択肢で選ばれるのではないかなと思うんですね。高校もあるし、スーパーもあるし全然悪い場所ではない。なので、人を呼んでくる建物、インフラといいますか、揃っている地域だと思うんで、人を、子育て世代を呼んでくるようなことと合わせてやるのが前向きな動きではないかなと思います。以上です。

はい、ありがとうございました。この推計表が、数字だけ見ると減っていくばかりだということで、減っていくのを待っているだけなのかというようなご指摘もあったと思います。我々その教育委員会、市全体としまして、先ほどちょっとご紹介もありましたけども、親元近居助成制度ということで、これも川西のほうがですね、非常に特徴的な取り組みとして、子育て世代の方の流入策として取り組んでいるものです。それ以外に今年度から7月からは中学生の医療費ですね、助成割合を増やすというようなところであったりとか、あともうちょっとさかのぼってになるんですけども、新婚生活の支援をしていくというようなことで、その引っ越し費用だったりとか、そういうのを助成しているような制度も市としては取り組んでいると。子育て世代をできるだけ川西のほうに来ていただきたいというような施策を展開しておるところです。それが本当にその目に見えてですね、数字に表れてくるかというのは、これはちょっとまた難しいところなんです。もちろんその効果として出てくるところもあると思うんですけども、それで飛躍的に子どもの数が増えるかと言ったら、なかなかそこまでは期待できないと思います。

あと、その今後の推計を考えるとときには、確かにこのグリーンハイツの中には優良な中古住宅がありますし、不動産としては非常にその価値の高いものが豊富にあります。ですので、そういうそのキャパシティがあるということなんですけども、今後その例えばその新名神のそのインターチェンジの開設等も含めて、今後の先行きがですね、確かに今の時点でわからないんです。ただ今、その推計をしようとしたらこのやり方で、過去のその傾向だけを見てですね、数字を当てはめればこういう結果になりましたということなんです。それでこれからを見ていったらこれとは全く異なる動きになる可能性もありますので、そこは十分見極めながら、適切な判断をしていく必要があるというふうに思っています。以上です。

<p>参加者 ＜地域住民＞</p>	<p>この市の発展にとって、この統合が本当にどう響くかということが一番大事な ことじゃないかと思ってるんですけども、基本的にこれ、子どもの少子化を前提に しておられるんですけども、全国的な状況を考えるときに、尼崎とか、やっぱり人 口があるいは児童数が増えてくるところがあります。それでちょうどね、この川西 は人口がプラスマイナスゼロに近い境界線上ぐらいの動きですね。それで今この 自然状況、環境、そして教育状況を考えるときに、この客観的に見たときに、通勤 状況を含めて非常にいい状況であると、この範囲ですけども、緑台中学校の進学 の状況を聞いて驚いたんですけども、すごくいいですね。</p> <p>それで去年の説明会のときに教育長が「ここの小・中学校のレベルは、全国的に トップレベルですよ」と。恐らく今の進学状況から見たら。ということは、今のこ の小学校、中学校、高等学校のこの状況を何とか私は大事にしてほしいと考えてい ます。</p> <p>それで、昨年ですけども、緑台小学校が陽明小学校と合併されて一緒になるとい う中で、緑台地区の住宅の新しい建設とかが結構少なくなりばたりと止ったんで す。私、不動産屋の方と話して聞いても「もうこれは深刻です」と。いかに地域に とって家を建てようかどうかこれから考えられる家庭で、地域の小学校がなくなる ということは、大きな深刻な打撃になるのを去年経験したんですけども、ただ、見 直されてから緑台、あるいは水明台に新しい家が今はっきり言いまして、続々と建 っております。ものすごい秋から世代交代が始まっているとみています。これはい ずれ水明台のほうもこの状況が波及していくと考えます。その状況というのは、恐 らく新しい家が建っていくと。そしてやっぱり戸建てがこれからは見直される。そ してたまたま非常に低金利で、安く家が建てられるという状況を見たときに、むし ろグリーンハイツはこれからどんどん新しい家が建っていくんじゃないかなと思 います。だから、したがって、ひとつは私は緑台、あるいは水明台をほんまにここ数 か月の新しい家の状況をどうとられるかというあたりをお聞きしたいと思いがあ るんです。</p> <p>そんなね、数年単位で学校をなくすとかどうかじゃなくて、日本全国で考えたら 単学級って当たり前なんですよ。あるいは世界的に見てもね、小学校というのは、 日本の小学校ちょっと人数が多すぎるんですけども、1学級はね、見たらね、もう 常識ですよ。だからやはりそういうことを考えたときに、先ほどもありましたよう に、文部省の基準というのは、基本的には合併を考えなさいという点は6学級規模 を基準にしてですね、だから、私はやっぱりそれを基本に考えていただいて、そし てこんな本当にね、30年、40年の単位を考えたら、一旦こんな立派な施設をな くしてしまったらもう二度とそういうことができないわけですから、私は、統合を 進めることによるデメリットが非常に大きいと考えますので、本当に長期の視点に 立った行政をお願いしたいと。以上です。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>はい。グリーンハイツ地区におきまして、児童数が増加していく。またはその 増加せずとも今の学校規模を維持していったら、統合の話がなくなってしまうとい</p>

<p>参加者 ＜未就学保護者＞</p>	<p>うのが一番いい形であるというのは、もう教育委員会も思っております。先ほどから話が出ておりますように、グリーンハイツ地区におきましては、近年、転入の方が一定数あるというのも事実でございます。</p> <p>ただ一方で、このグリーンハイツにある2つの小学校の児童数の推移を見たときに、ずっと減少してきているというのもまた事実でございますので、教育委員会としましてはそういった中・長期的な展望から、現在お示ししました手順で取り組みを進めていきたいというふうに考えております。ただ、その中でまた転入の状況とかというのも当然把握して検討していきたいと思っております。</p> <p>小学校統合のこととか、色々今後、単学級が複数になっていったら保護者の方とか、いろんな方と話を決めていきたいということなんですけども、実際に今、小学校に通っているお母さんが未就園児、これから小学校に行くというお母さん方に実際、市は今、こういうふうに動いてこう考えてます。それを単学級が2クラスになったら統合していきたいというふうに考えているけど、実際、子どもの教育環境について考えてそうしていきたいと思っている。実際は、それを本当に望んでいるのか、望んでいないのかというのを何か皆さんはご存知なのかなと思って、この、ここだけのやり取りで決めていくんじゃなくて、ここに来たくても実際、子どもを抱えて来れないお母さんとか、敷居が高くて来れないお母さんもいると思うので、私も今回初めてなんですけど、そういうお母さんたちのやっぱり声も聞いていただいて、それも今後の検討も参考にさせていただきたいなと思いますので、またアンケートを全員のお家に配るとか、大変かも知れませんが、集計とかも1回そういうのもしていただいて、実際の声も聞いていただけたらなと思います。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>はい。先ほど申しましたとおりこの説明会、4つの小学校で説明会のあと少し小規模な手順の説明会をしていきたいというふうに思っております。それは例えば地域であったり、学校の保護者であったり、また先ほどおっしゃっていただいた就学前の幼稚園であったり保育所の保護者の方、こういった切り口でいけるのかというのは、少しこれからまた皆様とも相談させていただきたいと思うんですが、小規模な単位での説明会をしていく予定としております。本日もたくさんお越しいただいているんですが、なかなかそのこれだけの人数の中ではしゃべりにくいといった方もいらっしゃるかと思いますので、小規模の中でできるだけたくさんのご意見、その中では、単にまあ賛成・反対ということではなくて、小規模ではこういうメリットがあるよと具体的なところをまたお聞かせいただきたいというふうに思っております。</p>
<p>参加者 ＜未就学保護者＞</p>	<p>私、緑台地区のほうから今日出させていただいているんですけども、1年前に大阪市のほうから引越ししてまいりました。まあ色々今回お話しを聞いて考えさせられたこともあるんですけど、今、この子が4歳で、2年後ぐらいには小学校に入ることになるんですけども、一番懸念することは日々の生活のことで、通学というこ</p>

	<p>とに関して今までにお話があったかと思うんですが、もうひとつ初めて参加したもので、わからないことがあるんですけども、実際、川西市はすごく坂が多くて、現在、保育園を多田のほうに自転車で通っているような状態なんですけれども、子どもの足でここに登校したとしても歩いてくるということは基本、大変ことなんじゃないかなと考えております。そういった中で、子どもたちが毎日、安心・安全に通学できるような取り組みというか、通学バスができるとか、まあ先生が外に立って見守りしてくれるとか、そうすることが何か考えられているのかなというのがあったら教えてほしいと思っております。</p>
岸学校教育室長	<p>すみません、もちろん本当に一番、保護者の方、一番心配な通学というところで、子どもたちが安全に通えるのかというところでご不安の点、もう重々わかっております。それでそれについて具体的にじゃあ今どんなことを考えてるかというところは今、具体案はないんですけども、ただ必ずですね、その辺を含めてそういうこともじゃあどういった形で支援させていただけるのかということも含めてですね、話し合いを始めたときにしっかり検討させていただければというふうに思っております。現在ちょっと具体なところはないので、その辺はご不安を与えるかもしれないんですけど、必ずそれを含めて検討のほうをさせていただきたいと思っております。以上です。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p>
参加者 <在籍保護者>	<p>すみません、今、松風に1人と、陽明小に2人子どもがいます。この資料に書いてるのに、すみません、すごく戻るんですけど、「各学校で分けて、地域の人たちと保護者と話し合い」と書いてるのをこの意見を考える前にもっともっと小規模で、陽明も緑小も両方一緒に、ここの地域が1つやって私もすごく思うので、全部その一緒にやってほしいって、すみません、すごく思うんです。今まで言ってきたのはあったみたいに、本当に陽明も緑小も同じ私、幼稚園のお母さんがいるけど「あっ、そっちではそういうのやったよね」とか、「あと、うちはこういうのやね」とかいっぱい聞いてしまうんですね。でも中学校に行ったら同じ中学校の子どもたちを通すのにこの状況はすごく嫌で、まだ意見交換会とかするんやったらもっともっと小規模でしかも同じところで「統合するの」「一緒にするの」「違うところにもう一個、学校建てるの」とかめちゃくちゃ言えるぐらいの小規模の話し合いを持ってないのかなってちょっと思ったんです。</p> <p>できるんやったら例えばそのPTAの人から出すとか、自治会の上のほうの方が出てくれるとか、そしたら逆に、この私らそこにかかわってない人でも誰かのお母さんやからとかって、そこに「私らもこういう意見があるねん」とかっていうのを言いやすいかなという気はするんです。それで一杯いろんな人の意見で、確かに一気にこうやって聞くのもものすごくできない、難しいものだとは思っているので、もっと</p>

<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>もっとその小規模のことから始めていっていただいて、それで何年ぐらい目安で考えた上で、じゃあ何年ぐらいかけてこうしていきましょうというのを、もっとベースを作ってからしていただけたほうが安心できるかなとは思っています。ぎすぎすした状態を何とか本当にしてください。以上です。</p> <p>適正化の条件になりまして、話し合いが進んでいく中では、両校の方と一緒に話していただく場面というのは出てくるかも知れないと思っております。それまでは、先ほど言いました小規模な単位で説明会を行って行くんですが、おっしゃられるように、小学校と一緒にという場面はなかなか少ないかなと思っております。例えば幼稚園、保育所であればそういった場面もあるかも知れないんですが、学校の保護者とか、地域というグルーピングでいくと、なかなか2つの小学校の方が一緒にという場面も少ないかと思っておりますが、例えばまたこういったグループ分けができますよみたいなことがありましたら、またそういうグルーピングでも説明会のほうはさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。</p>
<p>参加者 <地域住民></p>	<p>地域の者です。たびたびすみません。最初からお話をお伺いしてて、最初に統合の話があって、やっぱりそれは反対があったので、今回その「適正化」という言葉を変えて持ってこられたんじゃないかなと思うんですね。やっぱり全体的に見れば少子化というのは日本国中の話で、学校がなくなっているというのはあちこちであるようですけど、新聞にも書いてありましたけど、京都で100年とかいう歴史のある学校が廃校になってその跡地をどうされているかみたいな、学校の跡地の再生利用をうまくしようという話も載ってございましたけども、先ほどもおっしゃいましたけど、「こうしますよ」というビジョンがやっぱり欲しいです。何か「減ったら統合します」「減らなかったらそのままいきます」というのは、一番お母さん方にとってつらいと思うんですね。だからそこがもうずっと今、私引っかかって、何かこう言ったら「いや、それはいろいろ考えて統合するのはそのときに考えます」「そのときに考えます」と言われたら「じゃあどうなるの」「どうなるの」というので、結構皆さんのうわさがわあっと回って、いろんなね、先ほど陽明と緑台の軋轢があったりとかね、そういうことが起こってしまうと思うんですね。</p> <p>だから将来的にこうするんだというビジョンをやっぱり出していただきたいと思えます。こうするからそのために皆さんの意見をよく聞きます。さっきもおっしゃったみたいにいろんなお母さん方からこういうところでお話をするのってすごく難しいと思うんですね。「ぶっちゃけこうやろ、こんなんできひんかなあ」みたいな話を皆さんがわあっと意見が出せるような場所で、それで最終的に「ああ、よかったね」ってね、みんなが思えるようなね、話し合いをやっていただきたいと思いま</p>

<p>牛尾教育長</p>	<p>す。これ何回かちょっと私、言いましたよ。聞いてましたよね、統合しますよって いうね、言い訳のような気がちょっと聞いててしました。よろしくをお願いします。</p> <p>よくわかります。本当に今回、適正化実施条件を明確にさせてもらったんです。国の動きも、そして地域の方、現状をですね、児童の実態も含めて、なぜ適正化実施条件というものを学年の中で複数の学年に単学級出た、このことを持ってこの年度から統合について一緒に検討していきましょうという1つの条件を出させてもらいます。これは国でいけば、さっき出ましたように、10学級になったときの状況です。10学級のことはまたもしかしたらですね、適正規模よりちょっと小さくなった状況で、国が言ってるように、5学級、6学級、7、8学級の状況じゃなくて、適正規模から少し弱さが出てきてますけどもね、そういう面での単学級が出てくる状況の中で、これがずっと続くかもしれませんし、現状その状態でしばらく続くかもしれませんけど、その時点で実際には統合についてひとつの過渡期の状態だと思うんです。見極めた状態としてはですよ。その段階で一緒に検討していきましょうという形で、そこは明確に出させていたでてるんです。じゃあどっちにするんだとか、いつするかというのは、今までそれでこちらのほうでお話してきたときにやっぱりいろんな考え方もありますし、地域の実態がある中で、それは5年なのか10年なのかわかりません。そういう面では、実際にそういう状況を地域の方も子どもたちも保護者も実際そういう状況を見たときに、見てからそれから先どうなるのかなということを含めて、一緒に検討していけたらと。どっちかにすることを明確にということは、今の段階では未定です。それを一緒に考えていきましょうという形で今回、手順も作らせてもらってますね、そして今、ご提出させてもらったわけでございます。</p>
<p>参加者 <地域住民></p>	<p>今、教育長さんがおっしゃいました、適正化というのをですね、基本に考えてこの案を出されておりますけども、私たちは適正化という、この数字が適正やということについてはですね、私たちは考えておりません。少子化が進む中で35人学級がですね、本当に適正かどうかって誰が決めるんですか。それは国の指針で決められたものなんですね。もっと子どもが少なくなってきたら、少人数でですね、まあお金も掛けてもっとうこういう勉強をさそうと。これから英語も小学校にも入ってくるようですけど、英語だけじゃないですね、パソコン関係も、情報関係の処理も小学校時代からもう入ってくるんですね。そういうことを考えていくと、先生だって大変になってますよ。適正化というのはね、まあ教育委員会が考えられてることであってですね、私たちは決して適正化が本当に正しいものやとは考えておりませんので、そのところを柔軟にして、むしろ私たちは少子化の中でですね、川西の教育委員会がこういうふうな視点でね、教育システムを考えていってるんだというのを発信していただいて、全国からすれば学びに来ようということぐらいのことを考えていただいたほうがですね、本当に私は涙が出るほど嬉しいことではいかなと。そういうものがこの今日配られた中の底辺に流れておりますとね、前向きになれた</p>

	<p>んじゃないかなと思いますけど、今日の時点ではちょっとそういう点の情熱いうのがですね、言うて悪いんですけど、色々やっておられると思いますけども、わかりにくかったなあという感想です。これは感想ですんで、お答えいただかなくて結構です。以上です。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>まだまだご意見あるかもしれないんですけど、ちょっと次の説明会が3時半からということもありますので、もしその他ございましたら。はい。</p>
参加者 <在籍保護者>	<p>すみません、先ほどから例えば100人を切ったらとか、例えばその状況が3年続いたりとか、色々地域の方からも案を出していただいていると思うんですけども、今後、話し合いを進めていますとおっしゃっているんですけども、ずっとそのお答えが手順からそれないというか、この手順わかりますけど、この手順でいきますっていうお答えで今のところ進んでると思うんですけど、今日こうやって皆さんから出していただいた意見は、これは実際にどのように反映されていくのかをお聞かせください。</p>
志波学務課長	<p>はい。様々なご意見を頂戴しておるところです。今回の手順でいうと、こちらのほうから一方的な説明というようなふうにとられた可能性はあるんですけども、一応これについては、我々としてはその決定事項であるというふうな捉え方はしておりません。ただ、ご意見は伺ってるんですけども、今のこのお示ししてる手順の中でその重大なその誤りがあったりとか、例えば大勢の皆様の考え方に基づいてないとか、異なってるというような状況があれば持ち帰って検討するということは必要かなというふうには考えております。様々なご意見を頂戴した中では、今のところはこの手順についてもですね、我々として十分に検討させていただいて、また市議会等にも報告をしながら説明してきた経緯もございますので、できましたらこの内容と、皆様のご意見とで大きな違いがなければ、この手順に沿って進めさせていただきたいなというふうに思っております。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>はい。</p>
参加者 <地域住民>	<p>地域の住民です。そこなんですよね、そこなんですよ。地域の意見を聞く聞くってすごくいい言葉に聞こえますけども、先ほどももっともっと小さい両校分けずに小さいグループで話し合いをしてほしいですとか、他の方の話もありましたし、これって意見ですよ、一方的に聞かれるだけで、大きな大きなね、違いがなければこのままやらせていただきたいとおっしゃるんだったら聞かないでください。もうね、これだけみんなが集まって「これはこうしてほしいです。1回ご検討ください」という思いで申し上げているのに、何も変わってないじゃないですか。これありきじゃないですか。統合ありきではないと一生懸命おっしゃってますから、統合</p>

<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>ありきではないんでしょう。でも手順はありきですよ。何だかね、この暑い中、皆さんここに出てらしてね、いろんな意見おっしゃってくださいから一旦持ち帰ってそれはそれで結果はどうあれ検討してください。でないと、意見申し上げてても意味がないと思います。</p>
<p>参加者 <地域住民></p>	<p>はい。色々いただいた意見をまた検討させていただきますし、先ほど出ていました、その例えば100人がなぜ100人でいけるのかいけないかみたいな議論はなかなか今日時間的には難しいと思いますので、この後、小規模な説明会をさせていただく中で、具体的な話をまた聞かせていただきたいというふうに思っております。</p> <p>先ほどね、言われてましたけど、私たちずっと私は出てますけど、緑台小学校の保護者の人と陽明と一緒にしてくださいとお尋ねしてるんです。以前から。それが一度もないので、保護者さんも一緒にすればいろんな意見がわかります。こっちはこっちで陽明は陽明で話すと。また緑台で話されてお父さんとお母さんたちはちょっとよくわからなくなってしまうですんで、一度ここの陽明小のほうのほうが少ないですね、皆さん来てるお母さん、お父さん、保護者は。ですから、一緒にどうせ時間を1日で取るんでしたら、1時から5時半まで一緒にやっていただきたいと思います。それから先ほど、決めるというのはですね、教育委員会というのは5人の委員で構成され、その5人で教育の基本方針などを決定します。ですから、5人というのはその教育長も含め、加藤委員、それから服部委員、そういう人たち。それから女性の委員2人。教育長の牛尾さんが帰られてこの話をまた5人でされるんじゃないでしょうか。そこで決めると書いてますよ。教育委員会というのは、具体的な協議を行っているという、事務局や教育機関がそういう5人で話し合っただけで決まるとなってます。ですが、この話をまた持って帰って加藤委員とか、そういう服部委員とか、女性の委員、この前、傍聴に行きましたらそういう方と話してらっしゃいましたね。</p> <p>それから、2月10日に市議会がありましたときに、この2月10日ですけど、市議会の傍聴に行きました。そのときに言われてたのは、副市長、それから木下部長さんたちも皆さんは「統合ありきで」と言われたんですけど、それは今回来たとき変わられているので、こういう本当に純粋に変わられたかと思いました。その話を持って帰って話すのはそうですね、教育長さん。お願いします。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>はい。教育委員会制度につきましては、教育長も含めて5人の教育委員会の合議制という形ですので、例えば今日の説明会の状況などは、事務局のほうから教育委員さん、皆様に報告させていただいて、最終的に決定するのはその5人の教育委員会で決定するというございます。おっしゃられたとおりでございます。</p>

<p>参加者 ＜地域住民＞</p>	<p>外部の人がいるじゃないですか。結局は。本当に実態を知るんでしたら、その人たちが今度呼んでください。ここに来て、その実態、皆さんの声を。外部の人です、加藤委員さんなんかも、そういう方ですね、服部さんっていう委員、女性の委員も、そういう人らからね、そういう人と会議で決められるんでしたらここに呼ぶべきです。本当に実際、この現実の声を聞かせるべきです。そうしていただきたいと思います。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>教育委員会制度につきましては、よりその地域の方、市民の方の意見を反映するという意味での制度、合議制になっておりますので、先ほど申しましたように、こういった説明会での内容につきましては事務局のほうから報告をさせていただいて、その中で判断をいただいているという。その中で言いますのは、その説明を受けたことだけではなくて、そのほかの教育委員会全般のことも踏まえて、最終的には教育委員会で判断をいただいているというところでございます。</p>
<p>伊豆参事兼学校指導課長</p>	<p>ほかにいかがですか。</p>
<p>参加者 ＜未就学保護者＞</p>	<p>すみません、未就園児の保護者なんですけれども、手順を明確にされたと言われてますが、それは誰が決めたんですか。今までそんな単学級が複数学年になったらじゃあ統合のほうの方向に進めましょうという話は、そのとき誰かが言ったんでしょうか。まず小規模で話し合いをするということは、条件が変更になることはあるということなのか、あとまだ協議その複数学年で単学級が出た場合、協議、検討しますというふうになってますけど、その検討した上での決定方法は今の話を聞いていると、教育委員会の5人の方が結局決定されるのか、もしそれで万が一、協議、検討した上で統合しないという話も決定が下りるのか。今までの松風幼稚園だとかいろんなことの話を知っていると、まあ統合ありきで進める教育委員会さんは結局、統合のほうに進めたいんじゃないのかなというふうに思っていて、この説明会の意見をまあ結局は「はい、聞きました」という感じで終わらされるような気がしてしまいます。</p>
<p>中西総務調整室長 兼教育推進部参事</p>	<p>ちょっと繰り返しになるんですが、現時点では教育委員会としましては、その統合のメリット・デメリットを考えたときには、統合のほう望ましいだろうという判断をしております。これは以前と変わっておりません。ただ、学校のあり方ですとか、学校運営を考えたときには、もう少し皆さんの意見を聞く必要があるだろうということで、統合時期また統合後の学校をどちらを使うのかということについては未定としたところでございます。今後、統合のメリット・デメリットというところの具体的な話をもう少しさせていただいて、例えば今、教育委員会はメリットのほうが多いというふうに判断してるんですが、それがまた逆転するようであればそういったことになることもあると考えております。</p>

牛尾教育長	<p>適正化実施条件のことですね、なぜ6学年のうち複数学年でという、これも根拠を取られたときにですね、なかなか厳しいところがあります。実際に、目安のところでは10、9、10、11学級のところでは1つのね、実際には適正規模に近い状況の中の一つこの適正化に近いところの状況の条件もあるんですけども、じゃあ2学級でということは、一時的な単学級が出たということではなくてですね、複数出た。じゃあ3学年とも単学級が出たと、1クラスなったというものの見方もできるかもしれません。ただ、それ以降になると4、5となったときにですね、半分以上がもうクラス替えもできない状態というのでも出てきたときにね、一定その一つの適正化実施条件というのはこちらも一定お渡しするときには、その根拠というものは少しはっきりというの難しい状況がありました。じゃあ一つでも二つでも三つでもと問われたときにはですね、今の段階では、複数にも単学級が出たときにはやっぱり先のことも考えたときにということで、適正化実施条件としてはご提出させてもらって、今この方向について考えていけたらなと思っております。ただ、ご意見いただきましたんでね、そういったことも含めて、あと検討は検討して考えていきたいとは思っています。</p>
参加者 ＜未就学保護者＞	<p>すみません、協議決定の決定方法は、やっぱり教育委員会の5人の方が結局決定されるのか、多分無理だとは思いますが、住民投票じゃないですけど、何かそういう意見を聞いて、全員の意見、全員興味がない人は意見しないと思うんですけど、全員の意見を何か反映するという方針とか、そういうことはできないんでしょうか。</p>
中西総務調整室長 兼教育推進部参事	<p>その賛成・反対、重要なのが賛成・反対の中身だと思っております。なぜその小規模で存続させるのか、またはそのなぜ統合するのか、そのあたりのメリット・デメリットというところを十分に考える必要があると思っておりますので、単にその賛成か反対か。例えば投票とかということではないというふうに考えております。ですので、そういった中身を十分議論させていただいた上で、最終的には教育委員会の責任において決定していくということになると考えております。</p>
伊豆参事兼学校指導課長	<p>そしたら、お時間もまいってまいりまして、最後、もしないようでしたらお一人、よろしいでしょうか。はい。</p> <p>それでは、たくさんのご意見を本当にありがとうございました。</p> <p>最後に、教育推進部長、木下よりごあいさつ申し上げます。</p>
木下教育推進部長	<p>はい、すみません、本当にね、長時間色々なご意見いただいてありがとうございます。今日の説明会の中の趣旨は、この学校配置の適正化に関する手順、これがどういうものかということをご理解していただきたいということで、今日はお示しさせていただいたわけです。当然いろんなことが心配というか、不安になっ</p>

たりとか、知りたいとご意見が出てくるわけですが、現時点でお示しさせていただいたのは、我々のほうで実施条件と、いわゆる学校適正化の配置に関してのどういう条件が出たら話し合いが始まるかというところで「複数学年に単学級が出たその時点から話し合いを始めていきたいと思っています」ということが、この趣旨に書かれている趣旨でございますので、現時点できちっとお答えできることってというのが、例えば通学の問題、非常にご心配なのはわかりますけども、そのことを今日は協議させてもらっているわけじゃなくて、そういう状況が来たときにしっかりと住民と話し合うスタートをさせていただきたいと、そういうことで、お願いしたいということで、お話をさせていただいています。いろんな中にはスケジュール的な部分ではっきりと決まらなと、不安ばかり起こって仕方ないとか、いろんな意見もございましたし、その分もよくわかりますけれども、今までの経緯の中でそういうふうな形で進ませていただきたいということで、今日お話させていただきました。

一番我々も望むのは、子どもたちの数が減らないで、2校がしっかりとこの地区で存続していく。これが誰もが望んでいるということは、これは間違いございません。当然、小規模校の学校ということも望まれるという、そういう意見も一方である反面、やはりある程度の規模を必要としていくという、そういう2つの相反する2つのご意見ありますし、それはどちらが正しいとか、どちらが間違っているという、そういう論議じゃなくて、多分今までがこう経験されてきた中で、例えば単学級の中で6年間生活してきて私はすごくいい経験してきたから単学級、いわゆる小規模校でも大丈夫ですというお考えの方もありますし、実際にそういった小規模校の中で6年間過ごされた中で、どうしても人間関係が難しく、私はやはりそれは望ましいものではないと。そういったご意見を持っておられる方がそれはそれぞれが経験してきた中でのもう本当にどちらも本当の生の声ですのね、ただ、どこかで判断をしなきゃいけない時期はくるんだろうなというふうに思っています。

確かに、子どもたちが増えることは非常に望ましいことですが、少なくとも日本全体の子どもの数を見たときに、この川西だけが増えていくということは、非常に可能性としては低いらなと。当然それに向かったの努力はしていないといけないんですけども、もし本当に万が一、ずっと減っていったときにどうするのかということは、今からしっかりと考えていく必要があるのかなと。そういった意味で、今日このね、説明会というのは、終わりじゃなくてここが入口になりますので、先ほどいろんなご意見いただきました。地区一緒に話をする機会も必要でしょう。あるいは小規模の中で本当にざっくばらんな思っていることが言い合える話し合いも必要でしょう。そういったことを今後進めていきたいということで考えています。そういったことでまた色々ね、今日、十分なお話できなくて、また今後ご意見とかありましたらまたお伝えいただけましたらね、そういったことにも答えていきたいなというふうに思っています。今日、本当にね、長時間でしたし、まあある意味まだ十分話せてないということもありますけ

伊豆参事兼学校指導課長	<p>ども、本日はね、これで一旦終わらせていただきたいというふうに思っています。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> <p>これもちまして、本日の地域説明会を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>
-------------	--